



お互い補い支え合う「田舎力」と「都会力」

私

は、住まいはできれば銀座から歩いて15分程度の所にあるのが理想的と考える純都会派なので、「銀座のすし」は、心がスキップしながらの読み心地だった。

銀座にあるすし屋の名店を23軒訪ね歩き、なぜ、すし職人は皆「銀座」に憧れるのかを探ってゆく。魚を仕入れる築地がすぐ近くにあり、高級なすしを評価する客がいる。もうそれだけで十分な価値があるのだが、すし職人の「仕

事断」から伝わってくるのは、にぎりずしに込められた「江戸前」という気風なのだ。そのさつそうとした風がこのルポルターージュの最大の味つけではなからうか。

「銀座のすし」を読んだ後、本屋で見つけた一冊が、「実践！ 田舎力」。著者がすべての都道府県を巡って「田舎力」のある地域を取材し、時にサポートし、アドバイスし続けてきた渾身のルポルターージュ形式のエッセーである。本書にもしばしば登場する「地

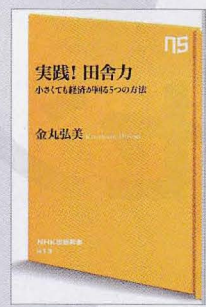
選・評
山本益博
料理評論家

産地消」、全国の地域で食材の売り込みに躍起になっているが、「食材」以上に「人材」づくりが大切という提言に、大いに共感した。著者は、いま日本は「田舎」と「都会」は別ではなく、お互い補い支え合わなくてはならない、と言っている。それをいまから40年も前に実現

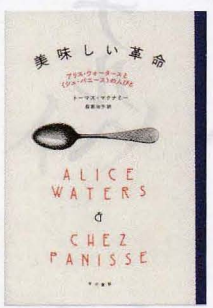
したのが、カリフォルニア州バークレーにレストランを開いたアリス・ウォーターズである。体に優しい質の高い食材を求め、志を同じくする人材を集めて、都会の人々に、おいしい料理と仲間同士で食卓を囲む楽しさを提供してゆく。『美味しい革命 アリス・ウォーターズと〈シェ・パニース〉の人びと』は、そのアリス・ウォーターズの半生記である。田舎と都会が料理で結ばれる絶好の例だろう。それにしてもアリスが提唱する「美味しい革命」、なんと美しい響き！



『銀座のすし』
山田五郎 著
(文春文庫 500円)



『実践! 田舎力』
金丸弘美 著
(NHK出版新書 780円)



『美味しい革命
アリス・ウォーターズと
〈シェ・パニース〉の人びと』
トーマス・マクナミー 著
(早川書房 2400円)

ドラマ
半沢直樹の
続きが読める!

やられたら倍返し—
**ロスジェネの
逆襲**

半沢直樹
シリーズ
最新作!

ロスジェネの逆襲
池井戸潤

団塊、バブル、ロスジェネ。
熾烈な企業買収ゲームの
勝者は誰か?

池井戸潤

定価1575円(税込)
978-4-478-02050-0
ダイヤモンド社